

idea

ニュースレター「アイデア」

2024. 8

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | はなほこども園 園長 宇津野泉さん(前編)
- 3 | 団体紹介 | 陶芸クラブkirameki
- 5 | 地域紹介 | 屋中自治会(室根)
- 7 | 企業紹介 | かりんの木(一関)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴④ 子どもの教育環境は連携・協働で！
- 9 | センターの自由研究 | 仕事の流儀ファイルNo.5 「茅葺屋根の葺き替え②」

今月の表紙

背中に大きなハサミが描かれた法被。茅葺職人たちが「大バサミ」と呼ぶもので、差した茅の長さを揃える作業(ヤガリ)などに使用します。この法被は川崎町門崎の「所萱」集落において、「茅無尽」を組織していた当時のもので、茅葺屋根の葺き替え作業の際に着用していたのだとか。(自由研究)

※撮影場所:国登録有形文化財「佐藤家住宅・横屋酒造(千厩町)」

idea

発行 いちのせき市民活動センター
〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ:https://www.center-i.org/ メール:center-i@tempo.co.jp

お知らせ

情報

磐清水自治協議会／ 一関市磐清水市民センター ホームページ開設

千厩町磐清水地域の地域協働体「磐清水自治協議会」が、2024年4月にホームページを開設しました。市民センターや地域協働体の事業紹介、磐清水自治協議会通信「コミュニケーション」、「磐清水市民センターだより」、活動の様子などを見ることができます。ぜひご活用ください。



URL:https://www.iwazuchi.com/
※「磐清水自治協議会」または「磐清水市民センター」と検索すると上位に出ています。
問合:0191-53-2850
(一関市磐清水市民センター内)

情報

一関市藤沢市民センター LINE公式アカウント開設

藤沢町の一関市藤沢市民センターが2024年5月にLINE公式アカウントを開設しました(指定管理者の藤沢住民自治協議会が運営)。同アカウントでは、市民センター事業の「わくわくセミナー」や「成人事業」のお知らせが届くほか、360度写真で施設見学ができます。ぜひ友だち登録をしてご活用ください。



「友だち検索」ID:@094zlnki
※二次元コードからの読み込みが上手くいかない場合は「LINE」アプリを起動し、上記IDを入力してください。
問合:0191-63-5515
(一関市藤沢市民センター内)

講座

第1期外国語講座 「初級ベトナム語教室」

「一関市国際交流協会」では、下記日程で「初級ベトナム語教室」を開講します。グエン コン フィン氏らを講師に、ベトナムの文化などにも触れながらベトナム語を学びます。ベトナム語を学んだことがない方でも参加できます。詳しくは下記まで。



日時:2024年8月31日/9月7日/9月28日/10月5日/10月12日/10月26日
※各回土曜10時～11時30分
場所:なのはなプラザ3階
(一関市大町4-29)
受講料:3,000円(全6回分)
定員:20名※最小催行人数5名
申込締切:8月15日(木)17時まで
問合:0191-34-4711
(一関市国際交流協会)

募集

「一関地球温暖化対策 地域協議会(IEL)」 会員募集中

住民・事業者・行政が協力しながら、地域での具体的な地球温暖化防止活動に自主的・積極的に取り組んでいる「一関地球温暖化対策地域協議会(通称:IEL)」は、会員を募集しています。

年齢、性別、居住地は不問で、活動に興味があれば誰でも入会可能。詳しくは下記まで。

活動内容:地球温暖化防止活動に関すること(各種セミナーの開催等)
年会費:〈個人〉500円
〈企業・団体〉5,000円/一口
※非営利(公的)団体については、会費の負担を免除する場合があります。
問合:0191-21-8331
(事務局:一関市市民環境部生活環境課環境企画係内)

イベント

「いちのせき市民フェスタ24」 及び「消防フェスティバル」

一関市内で活動を行う市民活動団体を中心に、個人・企業等が一堂に会し、活動紹介をはじめ、各種体験等により交流を図りながら、市民のまちづくりへの参画を促進する「いちのせき市民フェスタ」を下記日程で開催します(入場無料)。今年は45団体が参加するほか、一関東消防署主催の「消防フェスティバル」も同時開催します。詳しくは下記まで。



開催日時:2024年8月25日(日)10時～15時
場所:千厩アイスアリーナ
千厩農村環境改善センター
主催:一関市
いちのせき市民活動センター
問合:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

講座

令和6年度講座 「事務局スキルアップ講座」

地域コミュニティやNPOで活動する新任からベテラン事務局までを対象に、事務局スキルを磨く計4回の連続講座を開催します。講座の内容は各回異なり、事務局の役割や成果を出す事業計画案のつくり方、情報発信スキルなどです。詳しくは下記まで。

日時:2024年9月24日/10月22日/11月26日/12月10日
※各回火曜10時～12時
場所:なのはなプラザ4階 共同会議室
(一関市大町4-29)
参加料:2,000円/人
※4回連続受講の場合。単時限受講の場合は500円/1コマ
問合:0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「モチーフは『二十五菩薩』の飛天像」



橋のたもとにあるブロンズ像が印象的な東山町長坂の「迎橋」。平成7年に完成し、この像は彫刻家の沖村正康さん(東京都葛飾区)が制作しました。「飛天」というタイトルで、東山町松川の県指定文化財「二十五菩薩」の「飛天像」を模して作す(実物は頭・腕を損失)。

2024年 7月1日付
(2024年6月30日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	106367	-104
世帯数	46394	-28
出生数	32	8

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	53507	-27	24643	-11
花泉	11672	-18	4679	-2
川崎	3183	-1	1270	-1
千厩	9556	-10	4085	-3
大東	11526	-26	4857	-7
東山	5734	-4	2274	0
室根	4269	-3	1801	0
藤沢	6920	-15	2785	-4

180 / 106,367 はなほこども園 宇津野 泉

社会福祉法人花泉福祉会が展開する幼保連携型認定こども園「はなほこども園(旧：花泉保育園)」の園長(令和6年度より就任)。両親の経営していた同園に事務職で20年以上関わりながら、日本保育協会岩手県支部の事務局長をはじめ、一関市総合計画審議会委員など、様々な組織・会議でも活躍。「地域に開かれた施設」として、保育・教育を行っている。



自分で食べる量を決める「給食バイキング」。座る席も自由で、子どもたちの自主性が自然と育まれる。

第120回

はなほこども園 園長 宇津野 泉 ✕ いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

トランスフォーメーション

「変革」に不可欠なものは「組織力」 ～小さな「気づき」を積み重ねて【前編】～

6・7月号で「一関市DX推進計画」が目指すものについて考えを深め、「デジタル化(D)」よりも「トランスフォーメーション(X)」が重要であるということを確認しました。では、時代に合わせた「トランスフォーメーション」変革、変換」を行うために、必要な視点とは何なのでしょうか？花泉町にある「はなほこども園(幼保連携型認定こども園)」の実例を基に考えてみます(2回シリーズの前編)。

小野寺 「はなほこども園」の「お昼寝コット」導入事例をDX推進係から聞き、変革の背景にあるものを探りに来しました。園庭も施設内も、興味深いものばかりで、驚いています(笑)

宇津野 平成15年に移転新築したんですが、当時の園庭や施設、組織には課題が多く、子どもたちの大事な人生を培う環境をより良くしたいと思ったんです。

小野寺 組織改革に取り組んだんですか？

宇津野 例えば、そこに貼りだしている付箋^{※2}。職員が書いているんですけど、子どもたちのため、親のため、地域のため、先生たちのためになることを、どんな変えていこうって、そのために自分が感じていることを書き出せるようにしているんです。

小野寺 分野別に整理されているし、出されたものに対しての返事まで書かれてる！

な^{※4}ってるんですね。「園庭開放」も、発想の転換だなあと思うんですが、備品管理への不安などはないんですか？

宇津野 壊れたら壊れたで良いんじゃないですか？子どもが使って壊れるのは仕方ないし、なくなったら補充すれば良いじゃないですか(笑)

小野寺 それ！その考え方がみんなできなくて、ブレーキがかかるんですよ(笑)

宇津野 防犯カメラで抑止力は持たせているので、その経費はかかりませんが、使用できる環境や物は使った方が良いと思うので、「子どもの遊び場の確保」として、休日の園庭開放は他施設でもやった方が良くいづつと言いつけています。

小野寺 病児保育も今年度から展開していますが、導入の負担はなかったですか？

宇津野 すでにある環境を活用するだけですから、負担とは考えていません。そもそも看護師が2人いるので、システムや職員の配置を少し変えるだけです。

宇津野 職域リーダーたちが整理した上で、赤字で返事を書いていきます。これが定着するのは時間がかかって、最初は人の目を気にして書きたがらなかったんです。書いた自分たちが辛い思いをする……って。でも職員間の人間関係が上手くいかないと何をやってもダメだねって、何回も何回もやっていたうちに、ここまで来しました。

小野寺 これはトランスフォーメーション前の大事な工程ですね。気づきと向き合うというか。

宇津野 システムだけに頼った時代もあったんですが、殺伐としましたね。職員会議もシステムの中だけで「いつまでにこの件に対して発言してください」とか、顔を見ないで情報共有や意見交換もできるんですが、ダメですね。その方が楽だし、ロスもないように見えるんですけど、ゆくゆくを考えると、大きなロスにつながっていくと思うんです。

これから子どもはどんどん減っていく中で、マンパワーを余すことなくより充実した事業へと展開していきたいという話を職員たちにもした上で、やると言ってくれたから導入しました。このように新たな事業に着手する場合、必ず職員に伺いを立て、検討する期間を設けています。

小野寺 今ある環境を活かす、活かさない方がもったいない、そういう発想ですね。

宇津野 英語教室や体育教室をカリキュラムとして3〜5歳児クラスに取り入れています。希望のご家庭には、課外活動として、施設内の一角で個別レッスン(別料金)を受けられるようにしているんです。これもお母さんたちの「習い事をさせたいけど、送迎などが大変」という声があったので、「じゃあ、園の場所を使う？」という軽い発想からです(笑)同様にピアノ教室も課外活動のみで、希望のご家庭に向けて展開しています。

小野寺 確かにニーズはありますよね。その「軽い発想」を具現化できるのも、根本的な「組織力」の賜物だと思います。

小野寺 確かに、我々も職員会議で時間が足りなかった部分をグループウェアで埋めようと思いますが、文字だけで表情が見えないと、殺伐としていくことがあります(笑)職員間のチームがちゃんとできあがっていないとダメですよ。

宇津野 そうそう。システムも活用はしつつ、やっぱり人との関わり、関係性が大事です。

小野寺 システムを導入したとしても、職員間の気持ちの共有がなければ本末転倒というか…。

宇津野 先進地の視察研修も大事です。保育団体の役員をしているので、中央に行く機会もあり、他県の先生と意見交換をしたり、視察に行く中で、「これ良いな」と思った案件を持ち帰ってくるんです。「お昼寝コット」もその一つ。自分だけでなく、職員も外に出します。例えば横浜で研修があるとしたら、「近くにこんな良い園があるから、行っておいで」って、視察させるんです。そうやって園を変えていくための理解者を作るんです。私が一人で暴走しないように(笑)

小野寺 なるほど、変革の仲間を増やしていくんですね！

宇津野 子どもたちと親御さんたちにプラスになるであろうものは可能な限り実行しようと思っていて、そのアンテナに引っかけた案件を、いかに自分の園に取り入れるか、そこをいつも考えています。

小野寺 そうやって取り入れたものが他にもありますか？

宇津野 10年以上前に給食をバイキング形式にしました。少ししか食べられない子に無理に同じ量を出すのではなく、自分で「少し」「大盛り」って調整できた方が良いねって。当園はご飯も年長児が当番制で炊くんです。自分たちがといだお米を、ホールにある大きな釜で炊くので、お昼が近くなると、お米の炊ける良い匂いがしてくるんです。家ではなかなかやらないと思うので、これも生きる力だなって。お母さんに何かあった時にお米くらい炊ければ良いなって。

小野寺 そうした発想、ちょっとしたことの気づきが積み重なって。

※3 ホールと給食室がつながっており、3〜5歳児は給食の時間になるとおぼんをもって並び、好きな量を盛り付ける。給食室はガラス張りになっており、調理の様子を見ることができる。

※4 園庭を一般開放しており、在籍園児以外の家庭も自由に遊ぶことができます。月〜土曜日(開園日)は9時〜17時、日・祝日(休園日)は日没まで利用可。

※1 情報誌『idea(本誌)』2024年6月号「二言三言」参照

※2 会議室(昼食休憩時などにも使用)に常時張り出されており、常に目に触れるようになっている。

団体紹介

陶芸クラブkirameki

陶芸を楽しみたいという思いから、令和5年7月に発足。一関市東山市民センター2階第2研修室にて陶芸教室を年4回開催し、各回のテーマに沿って作品を制作。陶芸教室には誰でも参加可能で、参加人数は約30人。

※問い合わせは一関市東山市民センターへ
TEL：0191-47-2243

写真：同会が主催した初めての陶芸教室(令和5年7月)での集合写真。後列左から3番目が会長の小野寺千恵さん。



陶芸で「きらめく」会を

「作品を作っていると、みんな目を『キラキラッ!』とさせるんです。そして、出来上がったものを見て、また『キラキラッ!』とする。いつかみんなが作った食器で、お茶会やクリスマス会をしたいねって、先生と話しているんです」と、笑顔で語るのは、「陶芸クラブkirameki」の名付け親である松岡律子さん。「いつまでもきらめきたい!」という思いから命名しました。

同会発足のきっかけは、令和4年に「いわて生協」が主催した陶芸教室。「いわて生協」では、地域の組合員が集まり交流するため、様々な企画を実施しており、陶芸教室はその中の一つでした。

過去に陶芸体験をしたことがあり、「陶芸の魅力に惹かれていた」という小野寺千恵さんは、この陶芸教室に参加したことで、陶芸への興味が過熱。「今回の教室だけで終わるのは勿体ない」と考え、陶芸を指導してくれた小山澄

自由のびのび、居心地の良い場所

江さんが構える「あすみ工房(一関市厳美町)」に、友人の松岡さんを連れて「もう少しやりたい」と相談に行きました。

「陶芸の魅力を広めたい」という思いがあった小山さんが協力を申し出てくれたことを受け、小野寺さんたちは地元・東山町で陶芸を体験できる機会を創出しようとして動き出します。

地元には陶芸教室等がなく、陶芸に興味がある人がいるのか不安はありましたが、知人を中心に声をかけると、15人ほどの参加希望者が!そこで、小野寺さんを代表に団体として活動することとし、会員や参加者という枠に捉われず、緩やかな組織体として「陶芸教室」という場を提供していくことにしたのです。

自分の時間、仲間との時間

陶芸教室に参加する人は大多数が地元の人ですが、一関市外からの参加者も。「ご近所さんとか、子どもが同級生など、周りの人に

房に通うという選択も可能です。

来たい時に来て、作品を作って、片付けをして帰る。純粹に陶芸を楽しむだけの、ちょうど良い距離感。これからも楽しんで、陶芸仲間との時間を続けていきます。

- Photo

gallery -

陶芸教室の様子



「ひもづくり」や「いたづくり」等、陶芸の基本を学びます。約2時間で1作品仕上げるため、集中して取り組みます。

色のサンプル



成形が終わったら、釉薬の色を選びます。「色で印象が変わるから」と、悩む時間も楽しみの一つです。

生活の一部に



自分が作った茶碗で食べるご飯は、一段と美味しく感じます。家族へのプレゼント用に作品を作る人も。

初めての展覧



令和5年の「東山文化祭・松川会場(一関市松川市民センター)」に作品を出展。今年のも文化祭にも出展する予定。

声をかけた形なので同じような年代で集まっています。べったりした感じはなくて、たまに会って『久しぶりね』という距離感で、心地いいです」と微笑む小野寺さん。

今では多い時で参加者が30人になることも。「毎回来なければいけないという縛りはないです。もちろん1回きりの体験でもいい。去る者は追わず来る者は拒まずの精神でやっています」と、初めましての人も気軽に参加でき、続けたい人には続けやすい環境を意識しています。

その一つが制作工程。通常、陶芸は土(粘土)を練ることから始まりますが、同会の陶芸教室の場合、講師が調整した土を用い、基本の成形方法を教えてもらいながら、作品作りに励みます。

「私たちは、粘土を成形して釉薬の色を選ぶまでしかやりません。毎回工房まで行くと、長く続けられない方もあるので、最初はこのスタイルで始めました」と、参加者の負担をなるべく少なくする事をモットーにしています。

生徒が成形した作品は、講師の小山さんが整えて焼くため、失敗もなく、「粘土の状態までしか知らないから、自分の想像を超える素晴らしい出来になって手元に届くのがいつも楽しみです」と、同会員は口を揃えて語ります。

細く長く、気楽な距離感で

「子どもの頃、図工で『やらされていた』感覚の粘土じゃなく、自分がやりたくて触る土の冷たい感じが気持ち良いんです」と、その魅力を語る同会員の鈴木真由美さん。共通テーマで作った作品をみんなと見せ合い、仲間と同じ時間を過ごすことも、陶芸教室の楽しみとなっています。

同会の陶芸教室は毎回テーマを決めています。一通りの器は取り組んだため「今後のテーマを工夫したい」と考えている小野寺さん。講師とも相談し、次回は土を変えてみたり、同じ皿でも家族用を作ってみたりと、次のアイデアを練っている段階です。「今までの土は重みがあったので、軽い土で作るのも良いかも。次は何を作ろうか考えるのが楽しみ」と、まさに団体名の通り松岡さんもキラキラとした表情を見せます。

「参加者は随時受け付けています。土を成形するだけなので、色付け等をやりたい人には物足りないかもしれませんが、その分気楽にできますよ」と小野寺さん。陶芸教室をきっかけにもっと陶芸を極めたい人は、講師の工

Q.あなたにとって「陶芸」とは?

会員



A. 自分時間

すずき まゆみ
鈴木 真由美さん

「仲間と共に自分の好きなこと、自分がやりたいと思ったことに向き合える、貴重で楽しい時間です」と、年4回の陶芸教室を楽しみにしています。

会員



A. 高度な緊張感

まつおか りつこ
松岡 律子さん

「やり直しがきかないからね、自分が好きでやっている他の趣味でも、緊張感を持ってやることって少ないから」と、陶芸の魅力を語ります。

地域紹介

多世代が集まる機会を大切にしながら

子供会育成部との「お互い様」の関係づくり

旧折壁小学校や一関市室根市民センター（以下、市民センター）なども立地しながら、室根神社の参道や室根山山頂も位置する屋中自治会。昔から子どもの数も比較的多く、「屋中子供会育成部（以下、育成部）」と自治会活動の連携事業が複数あります。

例えば春の一斉清掃。同自治会では室根山の山開きに合わせて実施します（令和6年の場合、他自治会より1週間早い実施）。大人は班内のゴミ拾いをしますが、市民センターから蟻塚公園までの2km強の道は、育成部が中心になって行い、小中学生と大人が同じ時間に汗を流します。

花壇の花植えも育成部との合同開催。花壇と言っても自治会館横の約4aの畑を活用しており、広々とした空間に小中学生と保護者、自治会員が集まります。定植後の管理は班単位ですが、定植時は自由参加にしているので、小中

地域福祉から伝統芸能まで 様々な機会を用意して

同自治会の恒例行事として、新年交賀会と同日開催の「福祉活動推進座談会」があります。一関市社会福祉協議会室根支部の支部長を招き、地域福祉に関する現状やサービス等について情報・意見交換を行うもので、例年50人程が参加します。

その後に行う新年交賀会では「1年の幕開け」として、民謡シヨなど、何かしらのステージ発表を用意。令和6年は同自治会住民有志による「屋中郷土芸能保存会」が打ち囃子を披露しました。実は、同保存会が新年交賀会で

屋中郷土芸能保存会

令和6年の新年交賀会における打ち囃子の様子。昭和43年結成の同会は、自治会内の30代〜60代まで約30人で活動を継承中。



毎年8月14日に開催

かつては櫓を組み、盆踊りもしていた夏祭り。屋台人員は文化体育部が声をかけ、40代〜50代を中心に運営しています。



巨大な畑の花壇にて

育成部と共に定植する花壇は畑の中。花壇の横には農家組合がサツマイモを植え、秋には育成部と収穫を行います。



ズラリと並ぶ集合写真

自治会館には数えきれない程の写真や賞状。毎年撮影し額装する新年交賀会の集合写真は自治会の貴重な記録です。



屋中自治会

室根



屋中自治会(折壁)

行政区は「室根7区」。約170世帯(うち約30が外国人世帯)のうち、自治会加入は約130戸。約380人(うち約30人が外国人)が暮らす、室根では2番目に大きな行政区。18班体制で、自治会は総務、生活環境、文化体育、女性、産業、福祉の6部会体制で運営。

左の写真：令和6年度「福祉活動推進座談会／新年交賀会」での集合写真(写真中央は講師及び来賓)

演奏するのは初めて。かつては小学生も多く参加し、打ち囃子と田植え踊りを継承してきた同保存会ですが、近年は60代が中心となり、打ち囃子の継承のみとなっているのが現状。改めて同保存会の活動に興味関心を持つてもらいたいという想いもあり、新年交賀会での演奏を依頼しました。

「コロナ禍後の幕開けにふさわしいステージだった」と、笑顔を見せるのは自治会長の田中繁さんです。今年から「どんと祭」も同日開催にしたことにも触れ、「3事業を同日に開催するので、準備は大変だったが、自治会員からは好評だった」と、振り返ります。

組織・役の多さを乗り越えていくために

「みんなが集まれるような自治会でありたい」と語る田中さん。その機会の一つに毎年8月14日に開催する夏祭りがあります。若い世代が多い文化体育部が中心となり、飲食の屋台や、子ども向けの企画(おもちゃすくいや射的等)を準備。フィナーレの花火は約10万円程の予算で、帰省客にとっても「思い出深いひと時」を創出しています。

11月に開催する秋祭りにも、様々な年代が参加。自治会員が栽培・提供し

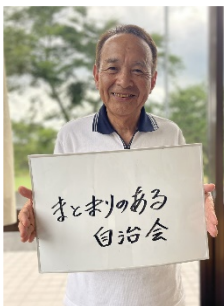
た野菜で行う展示即売会には、例年100点程が並び、売上は自治会の活動費に充てられます。また、防災訓練も抱き合わせ、炊き出し訓練のほか、過去には煙体験や電話のかけ方講習を行ったことも。さらに同日、農家組合が花壇横の畑に植えたサツマイモの収穫を育成部とともに行うことで、子どもたちにも秋を感じてもらいます。

様々な工夫を凝らしながら各種事業を行う同自治会ですが、田中さんは「高齢化ですね」と寂しそうな表情も。以前は室根地域で開催される各種スポーツ大会にも全種目参加し、自治会員の多さもあって優勝の常連自治会でしたが、近年は参加種目も減りました。人口は室根地域の中で2番目に多いものの「人がいるようではない」と田中さん。同行政区内には人口に比例して自治会以外の組織数も多く、役員の成り手不足など、その運営には悩みがつきません。

今年10月に開催される「室根神社特別大祭」でも、自治会としては「神輿あげ」という大役があるほか、同大祭内の「褰祭り」には、若菜沢・勢返の2地区に分かれて出陣します。人口減少と高齢化が進む中、これらの役目を継承していくことには、様々な葛藤があり、今年は負担軽減のため、自治会

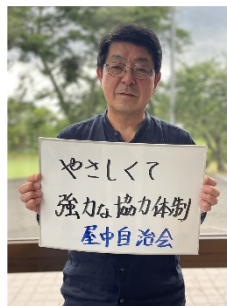
Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長(兼区長)



A. ままとりのある自治会

事務局長



A. やさしくて 強力な協力体制

田中 繁さん

事務局長、副会長を経て、現職は2期3年目。区長も兼務する田中さんは、毎月市広報の配布で約170戸を2日かけて回っており、一人暮らし世帯等の見守りにもつながっています。

高橋 澄夫さん

副会長を経て、現職は1期1年目。実は田中さんも高橋さんも元校長先生。総務部長も兼ねる事務局長が自治会報を発行するので、高橋さん作の自治会報に期待が高まります。

- Photo

gallery -

平成27年、一関市弥栄(平沢地内)でオープンした古民家カフェ「HIRASAWA F MARKET」(1号店)。地域食材などを使用したランチ・デザート等を提供するほか、地域の野菜・農産加工品等の販売、店内で展示会・イベント等を開催するなど集いの場となっていました。平成30年には一関市三関に2号店として「HIRASAWA F MARKET SANNOSEKI」をオープン(※)しますが、2号店が軌道に乗った直後にコロナ禍となり、1号店を閉店(令和元年)。令和4年、弥栄字久保田の自宅に拠点を移し、「自宅カフェ」で再出発。あえてコンセプトを明確にはせず、その時々での想いや考えを形にしたカフェを展開しています。
※現在、カフェ部分は別オーナーが展開し、他スペースはHIRASAWA F MARKET惣菜製造の施設として使用中

自身の素直な「想い」を「かたち」に

令和4年4月、一関市弥栄にオープンした「かりんの木 from HIRASAWA F MARKET」は、オーナーの熊谷志江さんの自宅を店舗に構えた「自宅カフェ」で、1号店のオープンから10年目で、「かりんの木」に名前を変更しました。

1号店となる古民家カフェ「HIRASAWA F MARKET」が開店したのは平成27年9月。田畑が広がり、兼業農家も多い弥栄・平沢地区に嫁ぎ、仕事と子育てで忙しい毎日を送っていた熊谷さん(埼玉県出身)は、農家のお母さん方が、丹精込めて育てた野菜を「食べきれないから」と廃棄処分している事実を目の当たりにしました。

「もったいない」と感じた熊谷さんは「地元野菜・加工品をおしゃれな空間で販売できたら」という構想を練るように。そんな折、地区の新年会に初めて参加することになり、「話題提供の一つに」と、自身の構想と重なる雑誌の切り抜きを持参します。緊張しつつも「ちよつとoshiyarena野菜の販売所」と「その野菜を用いた料理提供の場」の話をす

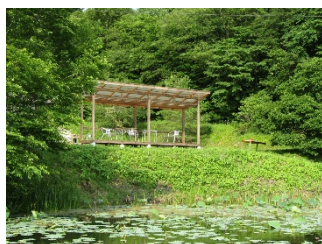
地域を動かし共に歩んだ日々

ると、「いいね。出来ることがあれば手伝うよ」という反応が！

その後、地区民から改修可能な古民家を紹介いただき、起業へ向けた専門家からのアドバイスも受け、「地元野菜も購入できる古民家カフェ」の思いを形にしていきます。空間づくりが得意な熊谷さんの構想をベースに、地区民にも協力をお願いしながらリノベーションを進め、夏休みには、子ども会行事の一つとして「漆喰塗り体験」も企画。「地域の方々に支えられてのスタートでした」と、当時を振り返ります。

経験から得た気づき「ストーリー性」ではない「価値」を

地元小学校の探検授業や高校等の職場体験も受け入れるなど、地域への機会提供も惜しまず、さらには2号店を市内三関に展開するなど、事業を拡大する中でコロナ禍に突入。苦渋の判断で1号店を閉店します。「自粛せざるを得ない状況や、交



- 1 「かりんの木」オーナー熊谷志江さん。
- 2 自宅の間取りやインテリアを工夫しカフェ空間に。
- 3 田園風景や蓮池を眺めることができるデッキ席も。

DATA

〒029-0211
一関市弥栄字久保田121
TEL 090-7522-2103
Instagram 「Karin no kiかりんの木(@hirasawafmarket_karin.noki)」

地域運営の落とし穴④9
子どもの教育環境は
連携・協働で！



博識杜の
フクロウ博士

第65話

‘課題解決の手法’としての‘コミュニティ・スクール’

令和6年度から一関市内すべての小中学校で「コミュニティ・スクール」が開始されました。「コミュニティ・スクール」とは、一言で説明すると「学校運営協議会を設置した学校のことを指します(※1)」。一関市の場合、「学校運営‘支援’協議会」となっているのが他自治体との違いで、地域住民の参加(支援)によって‘地域の特色ある学校づくり’を進めるものですが、「教育振興運動(以下、教振)」とどう違うのだろうか？という疑問も。

「教振」は、岩手県が全国に先駆けて提唱し、昭和40年頃から各地で取組が始まりました。地域によって内容は異なりますが、単なる教育や学習の視点で‘教育水準’を上げるのではなく、教育水準をあげるために‘教育環境’を整えることに重きがおかれてきたものです(※2)。当時、県内の子どもたちの学力は全国最下位に近く、その背後に隠れている‘家庭環境によって引き起こされている課題’に対して、学校と地域が連携・協働して教育基盤を整えてきたことは、課題解決手法の見本とも言えるでしょう。

そうした取組や時代の変化により、家庭環境がある程度整ってきた今、子どもの‘体験機会の減少’という課題に向き合い、‘〇〇教室’や‘〇〇体験’のような機会提供の取組が主になっているのが最近の教振の特徴です。

しかし、現代の子どもたちには「隠れ貧困」や「ヤングケアラー」など、新たな課題が生まれています。かつ、課題の複雑化・多様化だけでなく、課題が見えない・見えにくいという状況が……。学校に「スクールカウンセラー」や「ソーシャルワーカー」を配置するなど、体験の機会や安全安心の確保のため、「地域学校協働活動」として幅広い地域住民等の参画が促進されていますが、それぞれの機能は作用しているものの、‘一体的’ではないように感じます。

コミュニティ・スクールにおいては、学校運営支援協議会の‘設置’だけではなく、協議会が中心(ハブ)となり、‘一つ一つの機能を連携・協働させる’ことで、学力の向上と生活環境を整えつつ、子どもの成長支援のために‘地域と学校が同じ目標を持って進んでいく」ことが大事なのではないでしょうか。

岩手県は、「コミュニティ・スクールの導入により、教振の‘組織’は発展的に解消する」と言いながら、教振の‘機能’は、コミュニティ・スクールに組み込むか、並行して進めていくという方針。コミュニティ・スクールは‘地域の特色ある学校づくり」という表現から、伝統芸能やスポーツ・文化活動に取り組むようなイメージがありますが、「子どもたちを取り巻く課題の‘解決手法’に、‘地域の特色’が活かされている」という意味も含まれていることを願いたいです。……とすると、学校、学校運営支援協議会、地域協働体、専門機関がつながり、「補完性の原則」に基づいて、それぞれの専門領域の‘強みの掛け算’がされている状態が必要です。

今は、学校運営支援協議会が設置され、スタートしたばかりですが、いずれ教振の機能と一体的になり、本当の意味の‘コミュニティ・スクール’になることを期待しています。岩手県は、教振というベースがあるので、ある意味‘教振の原点回帰」なのかなと感じたところです。教振の必要性が提唱された昭和30～40年代と環境の違いはあれど、もしかしたら課題のレベル感、その当時と同じくらいの難解さを持っているかもしれません。

‘働き方改革の延長’と捉える方もいるかもしれませんが、学校だけで解決できない課題が多くなってきたために、地域との連携・協働により向き合っていかなければならない時代でもある、ということなのではないでしょうか。

※1)本誌2024年4月号「二言三言(『学校』と『地域』の『これから』～コミュニティ・スクールと地域部活動～)」参照
※2)本誌2023年2月号「二言三言(『子どもたちを『人間として教育する』～次代のリーダーを育てるために～)」参照

コミュニティ・スクール

教育振興運動の機能

学校運営支援協議会

地域の特色ある
学校づくり
専門領域の強みを
掛け算する

地域
協働体

専門
機関

茅葺屋根の「差し茅」作業に密着してみた②

前号に引き続き、室根町矢越の小山家にて令和5年12月～令和6年4月にかけて行われた、茅葺屋根の葺き替え作業をベースに、「差し茅」における「仕事の流儀」を記録していきます！ ※前号では「仕事の流儀1」として「棟梁の選任」、「仕事の流儀2」として「茅の準備」の工程をご紹介しますので、併せてご覧ください。



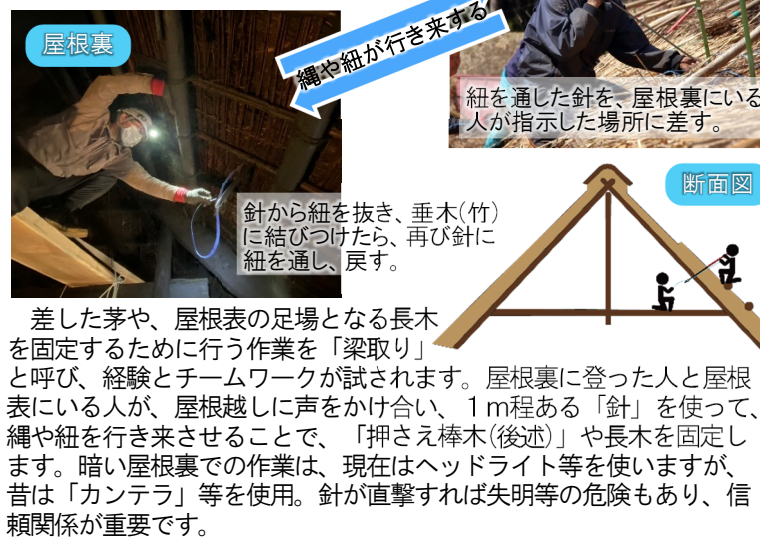
仕事の流儀4「材料」の準備

地上では屋根表の職人からの指示を受け、各種材料を準備し、足場の上に運びます。大変なのが「茅束」づくり。茅の長さは細かく指示が入ります(4.5尺～2.5尺程度の間)。「押切」を使って指示された長さに切り、根元部分2束、穂先部分2束の計4束を一つに束ね、足場の上の作業員経由で職人の手元に届けられます。その他、茅を固定するための竹串を加工したり、上から大量に落ちてくる古茅を片付けたり(畑の肥しにする)、職人たちがスムーズに作業できるよう、動き続けます。



今回は正面と向かって右側面の修繕作業が行われました(密着取材は正面のみ)。雨や農作業で中断した期間を除くと、正面の差し茅作業は約1か月、茅の刈取りも含めると、約5か月かかりました。なお、作業期間は、依頼人宅が作業従事者にお茶菓子等を準備。今回は搗きたて餅の振舞いも♪

仕事の流儀3「梁取り」作業



差し茅や、屋根表の足場となる長木を固定するために行う作業を「梁取り」と呼び、経験とチームワークが試されます。屋根裏に登った人と屋根表にいる人が、屋根越しに声をかけ合い、1m程ある「針」を使って、縄や紐を行き来させることで、「押さえ棒木(後述)」や長木を固定します。暗い屋根裏での作業は、現在はヘッドライト等を使いますが、昔は「カンテラ」等を使用。針が直撃すれば失明等の危険もあり、信頼関係が重要です。



仕事の流儀6長木の「足場」



地上～軒下までの足場が単管パイプだとしても、屋根表での作業には、屋根に直接長木を固定し(梁取り)、足場にします。1段終わる毎に長木足場が増えていき、最終的に10段程に。上に行くほど、長木を固定する「梁取り」作業は大変で、最上部まで行き、長木足場を解体しながらの作業もまた一苦勞。今回は稲の「はせ掛け」用の長木を使用しました。

茅葺屋根の葺き替え②

ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」にも登録されている「茅葺」「茅採取」の技術。文化として継承すべき貴重な技術ですが、現在、本市在住の「茅葺職人」は1名のみです。その職人技(伝統技術)を記録するため、本市に現存する茅葺屋根の葺き替え作業に密着！貴重な技術を拝見するだけでなく、実際に作業にも参加させていただきながら、昭和初期までは各地に存在した「茅無尽(結)」にも思いを馳せてきました(前号の続き)。

「差し茅」と「葺き替え」は、屋根表面だけでなく、茅の下にある垂木等も含め、全面的に交換する作業です。対して「差し茅」は、傷んだ古茅のみを取り除き、そこに新しい茅を差し込んで補強していく方法です。「葺き替え」よりもずっと少量の茅で済むし金銭的負担も少ないため、近年は「差し茅」が主流です(職人や材料不足の関係もあり)。「差し茅」による修繕を行う周期は、日当たりなどの立地条件によって異なりますが、15～20年周期が多いようです。この時、一度に4面とも変えるのではなく、数年おきに1面ずつ行うなど、金銭面や職人・作業者の負担を考え、計画的に修繕を行う家も。今回密着取材した室根町矢越の小山家では、約20年ぶりに、2年かけて3面の修繕を行いました(北側屋根のみ約10年前に実施)。

「差し茅」の大まかな流れ

- 1 足場の設置
- 2 古茅の除去(下に落としていく)
- 3 茅束の用意 茅束を足場に上げる
- 4 新しい茅の差し込み ガギで叩き、整える
- 5 「押さえ棒木」で茅を固定(梁取り)
- 6 長木で次の足場を設置(梁取り)
- 7 2～6を繰り返す
- 8 一番上まで完了したら、長木を撤去しながら茅を整える(ヤガリ※)
- 9 完成！足場を撤去



※大バサミを使って面をキレイにしてい

センターの自由研究

「差し茅」と「葺き替え」は、茅葺屋根は、経年劣化や鳥害により、穴が空いたり、薄くなることで、雨漏り等が発生します。そのため、定期的に修繕作業が必要です。「葺き替え」と「差し茅」の2つが主な修繕方法です。

「葺き替え」は、屋根表面だけでなく、茅の下にある垂木等も含め、全面的に交換する作業です。対して「差し茅」は、傷んだ古茅のみを取り除き、そこに新しい茅を差し込んで補強していく方法です。「葺き替え」よりもずっと少量の茅で済むし金銭的負担も少ないため、近年は「差し茅」が主流です(職人や材料不足の関係もあり)。「差し茅」による修繕を行う周期は、日当たりなどの立地条件によって異なりますが、15～20年周期が多いようです。この時、一度に4面とも変えるのではなく、数年おきに1面ずつ行うなど、金銭面や職人・作業者の負担を考え、計画的に修繕を行う家も。今回密着取材した室根町矢越の小山家では、約20年ぶりに、2年かけて3面の修繕を行いました(北側屋根のみ約10年前に実施)。

や実際の作業を行いました。「差し茅」は足場を組んだ屋根の上で行われますが、茅は屋根の傷み具合を見ながら、随時適切な長さに切り、屋根の上に運ばれます。そのため、作業員は「地上」「足場の上」「屋根の上(屋根表)」の3つのエリアに分かれることで、効率的に作業を進めます(「梁取り」の作業時には屋根裏(「内」)に回る人員も必要)。

差し棒：屋根に隙間を作り、古茅を除去し新しい茅を差し込む際に使用
ガギ：差した茅を叩き、揃えていく
針：穴に縄や紐を通し、屋根裏と行き来させることで、茅や長木を固定
押切：尺寸の指示を受け、茅を指示通りの長さに切る

＜参考文献＞ 参考文献等は誌面スペースの都合上当センターHPにて掲載します。

HPでは誌面に紹介しきれなかった作業の様子画像を掲載！ぜひご覧ください♪